

04.08.00

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

REC'D 18 AUG 2000

WIPO PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1999年11月13日

出 願 番 号

Application Number:

平成11年特許願第359648号

出 願 人

Applicant(s):

株式会社日本クリンエンジン研究所

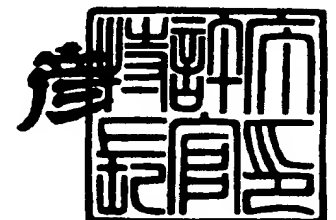
JP00/3418
4

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2000年 6月29日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Patent Office

近 藤 隆 彦



出証番号 出証特2000-3052479

【書類名】 特許願

【整理番号】 0005773

【提出日】 平成11年11月13日

【あて先】 特許庁長官 近藤 隆彦 殿

【発明の名称】 歩行介助装置

【請求項の数】 4

【発明者】

【住所又は居所】 石川県金沢市北安江3丁目1番33号 株式会社日本クリンエンジン研究所内

【氏名】 敷波 弘子

【発明者】

【住所又は居所】 石川県金沢市北安江3丁目1番33号 株式会社日本クリンエンジン研究所内

【氏名】 大西 繁

【特許出願人】

【識別番号】 000152837

【住所又は居所】 石川県金沢市北安江3丁目1番33号

【氏名又は名称】 株式会社日本クリンエンジン研究所

【代表者】 大西 繁

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【書類名】 明細書

【発明の名称】 歩行介助装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 馬蹄形またはコの字水平状の枠に車輪を配備して、移動枠部を形成して、その上部域に体位を支え得る支持枠を有する歩行介助器において、枠側部の片側または両側に開閉式座席装置を有する歩行介助装置。

【請求項 2】 枠部よりの脚部を長脚構造とした前記請求項 1 記載の歩行介助装置。

【請求項 3】 移動枠と体支持枠間にワンタッチで左右同時に作動せしめ得るブレーキ装置を配備し、また同時に解除し得る作動桿部を設けた前記請求項 1 記載の歩行介助装置。

【請求項 4】 上部支持枠両端部に転倒防止用のベルト支持金具を装備した前記請求項 1 記載の歩行介助装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は福祉・介護に必要な歩行器・歩行介助装置に関する。

【0002】

【背景技術】

怪我や長期入院・高齢者等、歩行の困難な人を社会復帰させるにはリハビリ訓練、特に歩行訓練は必須の重要事であり、そのための各種歩行器が公知である。しかし、従来の歩行器には座席装置がないため、歩行訓練途中の疲労より一休みしたい場合には、介助者や看護者がその都度椅子等を運ぶ必要があり、更に腰を下ろして休憩するにも常に介助者が本人の側から離れることができず、したがってこれらが必然的に多額の介護費用として跳返ってくる。

【0003】

また、歩行器利用者の用便移動に際しても、歩行器下部枠が便器に接触するので、便器に近接、跨状に位置付けできない構造である。

【0004】

【発明の開示】

本発明は歩行訓練中はその運動を阻害することなく枠内を広く保持し、もし体調により歩行継続が困難となり一憩みしたい場合には、本人または介助者が簡単に容易に素早く歩行枠内に座席部が構成される機構を求め、更に排泄用便時には歩行介助装置が便器に最接近し得る条件を充足させることにある。

【0005】

【発明の実施するための最良の形態】

本発明は歩行訓練者または歩行器を必要とする人が、移動の途中に休憩したい場合、自力でも簡単にブレーキ操作が行なえ、更に腰を下ろしてすぐに休めるよう、そのための座席が簡単に作れるよう、歩行介助装置の移動主枠部の両側に、自由自在に開閉させうる座席部を複数分割的に設けることを特徴とし、更に排泄用便時には水洗便器に跨状に位置付けできるよう、長脚構造とすることを特徴としている。更にワンタッチで枠両側に同時にブレーキを作用せしめる機構を有するものである。

【0006】

本発明の実施例を図1A正面図、B側面図、C俯瞰図によって説明すると、次の通りである。

【0007】

コの字形水平枠(1)はパイプ曲加工により、その両端が各々左右の後脚(2)(3)として用いられ、前脚部(4)(5)は水平枠両側に各々立ち上がり部(6)を有し、水平枠部に強固に溶着(7)され、脚部先端には各々車輪を装着して、移動水平枠部を構成している。

【0008】

そして水平枠両外側には図2に示すごとく座席枠(8)を支持するための支点金具(9)が取り付けられている。この両側に設けた座席は相互に干渉しないよう小型化されており、片側のみでも一時的に横向き(前向き・後ろ向き)の腰掛け休憩が行なえ、両座席を展開すれば前後方向の座席として活用し得る仕組みである。

【0009】

したがって歩行時には座席を矢印方向に反転させることで、歩行に全く支障を来さない構造であり、このような小座席部を主枠両側に対向的に設けることによって、座席上に荷物を乗せて運ぶ等、歩行介助以外の使用・利用方法／リハ訓練等の効果を得られる特長が生ずる。

【0010】

上部保護枠部（10）はその支持柱枠（11）を移動主枠前輪部の立ち上がりパイプ部を外筒とし、その内部へ挿入し得る構造であり、上部枠の高さを調整する複数の孔を有し、外筒上部には止め螺子機構（12）を有している。上部枠は人体に接触しても安全なクッション材（13）で覆われている。

【0011】

ブレーキ装置は前脚部（4）に近接させ、ブレーキ作動枠（14）の両側に配備し、左右（15）（15'）の同時的接床を目的とし、更にバネ（16）によって接床圧と作動性を向上している。ブレーキは手動作動桿（17）のワンタッチ作動で支点が外れ、確実に作動し得る仕組みである。更に長脚開き構造は移動の安全性に加え、便器に直接前進で跨状に位置し得る特徴があり、これによって多用する排泄用便時には特に有効であり、使用者の労力が軽減される。

【0012】

【作 用】

本実施例ではパイプ枠構造でその作用を示したが、開閉座席に加え長脚を特徴とし、その作用構造はシンプルである。本装置は、パイプ以外の多様な材料を用いても構成することが可能であり、更に既存の介助機器に容易に適用し得るものであり、効果の有することは説明するまでもないことである。

【0013】

【発明の効果】

本発明の歩行介助装置を用いることによれば、その使用者は歩行訓練や用便時等にも介助者に頼ることなく、自主的に目的が達成されるので、人間としての尊厳・プライドや自立・自活性が高まり、結果的に社会復帰が速まると共に、介助者費用／介護費用が軽減することになり、その経済効果は絶大なものがある。

【0014】

【図面の簡単な説明】

図 1 A、B、C は、本発明の構成を示す正面図、側面図、俯瞰図である。図 2 は座席部の開閉機構説明図である。各図斜線部は座席シート部を示す。

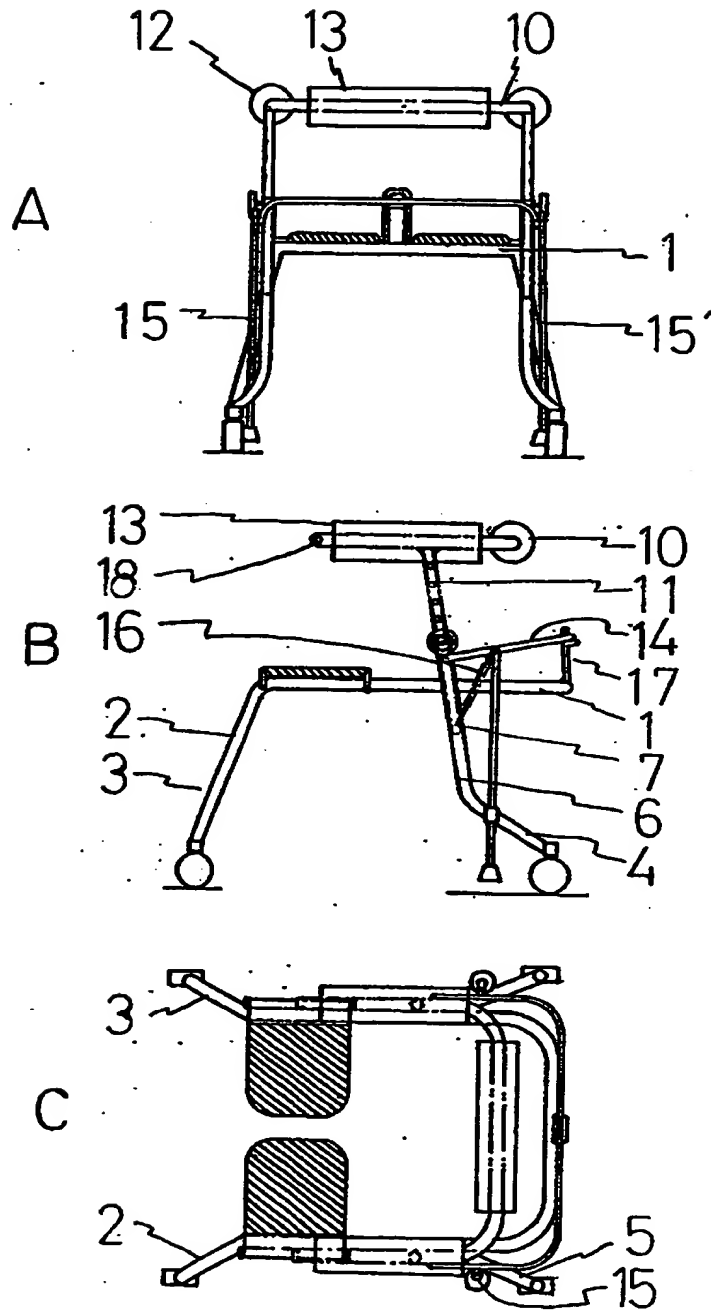
【符号の説明】

図中、1 … 移動棒水平状部、2 … 右後脚部、3 … 左後脚部、4 … 右前脚部、5 … 左前脚部、6 … 前脚立ち上がり部、7 … 溶着部、8 … 座席棒、9 … 支持金具、10 … 上部保護棒、11 … 保護棒支持柱部、12 … 高さ調整螺子部、13 … クッション材、14 … ブレーキ作動棒、15 … 右ブレーキアーム、15' … 左ブレーキアーム、16 … ブレーキ用バネ、17 … ブレーキ作動棒、18 … 安全ベルト取り付け用金具。」

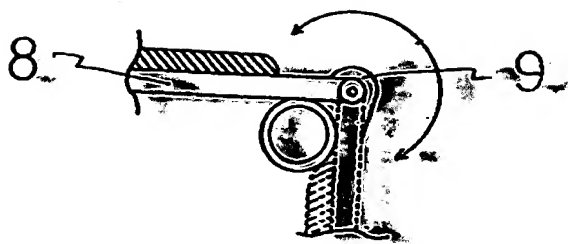
【書類名】

図面

【図 1】



【図 2】



【書類名】 要約書

【要約】

【目的】

- 自立・歩行・移動に補助・介助を要する人を、安全・安心にサポートし得る歩行介助装置を提供する。

【構成】

歩行器を構成する枠の側部に、開閉自在の座席を設け、移動・歩行時においても腰掛的休憩が安全・安心で行ない得る装置である。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000152837]

1. 変更年月日 1990年 9月 2日

[変更理由] 新規登録

住 所 石川県金沢市北安江3丁目1番33号

氏 名 株式会社日本クリンエンジン研究所